

上口三間 ナラシ二間

惣合坪四千四百三十三万九千四百十八坪

惣長壹万二千七百二十六間 勾配壹間ニ付尺〇二分二五五

海面ヨリ湖面四十七間八分四厘高シ

百間ニ付三分七厘六毛ノ勾配

## 拔萃

○北米合衆國鐵道統計 昨千八百九十七年六月三十日ヲ以テ終リタル一年度間ノ統計報告ニ依レハ該年度末ニ於ケル鐵道總延長ハ十八万二千七百七十六哩ニシテ同年度間ニ増加シタル線路ノ延長ハ二千百十九哩ニ達セリ

機關車ノ數ハ一年度間ニ二百五十一輛ヲ増シテ三万五千九百五十輛トナリ客車及貨車ノ數ハ二万七千八十八輛ヲ増シテ百二十九万七千六百四十五輛トナリ鐵道業ニ使役シタル人員ハ八十三万六千二百六十人ニシテ其俸給及賃銀ハ營業費總額ノ六割ニ當リテ前年度ニ比シ稍々減少セリ

鐵道投入資金總額ハ百五億六千六百八十六万五千七百七十一弗ニ達シテ一哩ニ付キ五万九千六百十弗ニ當ルモ尙ホ之ニ現在ノ負債額ヲ加フレハ六万三千六百六十八弗ニ當ル鐵道株券總額ハ五十二億二千六百五十二万七千二百六十九弗ニシテ内九億六千九百九十八万六千

六百九十二弗ハ優先株ニ屬ス鐵道株券中利益配當ヲ受ケタルモノハ七割以上ヲ占メ其金額ハ八千七百六十万三千三百七十一弗ニ達セリ

乗客ノ數ハ前年度ヨリ四百万人以上ヲ増シテ五億七千百七十七万二千七百三十七人ニ達シ運輸貨物ハ未曾有ノ多量ニ上リテ七億六千五百八十九万三千三百八十五噸トナリ前年度ニ比シ殆ト七千万噸ノ增加ヲナセリ

鐵道營業ノ收入ハ前年度ニ比シ七万五千弗ヲ増シテ十一億五千十六万九千三百七十六弗ニ達シ而シテ純收入ノ前年度ニ比シ三千三百万弗ノ增加ヲ致セシハ鐵道ノ管理上ニ大ナル節儉ヲ施シタルコトヲ證スルモノナリ

鐵道交通ニ於ケル遭難者ヲ擧クレハ鐵道業ニ從事スル人員ノ死亡者ハ約ソ千九百人負傷者ハ三万人乗客ノ死亡者ハ百八十一人負傷者ハ三千人鐵道業ニ從事スル人員ニモアラス乗客ニモアラサル人ニシテ鐵道ニヨリ死亡シタル者ハ四百六人同シク負傷シタルモノハ五千八百四十五人ナリ但シ此種ノ遭難者中ニハ鐵道踏切ノ場所ニ於テ死傷シタル者モ算入セラレタリ

(T, N)

○ 第三回 實驗報告  
煉瓦積立試驗(千八百九十七年十二月) 承前 K I 抄譯

ウヰリヤム、シーニー、ストリート氏及マクス、クラーク氏實驗

William C. Street and Max. Clarke.

學術常置委員ノ執行ニカル煉瓦積立(Brick Work)諸種ノ平均強力ヲ確定セントスル實驗ハ

(月三年一十三治明)

卷五十九百第誌會學工

昨春ニ於テ結了セリ實驗ハ高サ凡ソ六呎長サ二十七吋巾十八吋ノ煉瓦壁小部分ヲ二十箇積立タルモノヲウエストインデア船渠ニ於テ壓碎シタルニアリ下ニ掲クル所ノ諸表ニハ煉瓦壁ヘ壓力ヲ加ヘ其次第ニ増加スルニ隨ツテ情況如何ヲ記載シタリ著者ハストリート氏ニシテ同氏及同僚マクスクラークマットガルバット及ベルナルドデックン一諸氏Matt. Garbutt and Bernard Dickseeノ記錄ヲ參照シテ成レルモノニテ諸氏ハ親シク現場ニアリテ實驗觀察ヲ分擔シタリ

N-34 煉瓦壁、シツチンボルンノストック 煉瓦ラ トニノ石灰モルタル積ノモノ

(月三年一十三治明) 卷五十九百第誌會學工

## 第一圖



ノーストック煉瓦ヲ一トニノ石灰モルタル積ノモノ

三三分三八  
一七、四  
空、一  
四  
二、三

東面妻シク剥去リ裂ク落ツ

西面膨出シタレドモ表面別段異状ナシ

壁ハ北西方ニ傾キ而シテ落チ壓力計下ツテ百二十五斤トナル

「E」及ヒヲ見ヨ

モルタル密着シタレドモ猶ホ濕氣ヲ含メリ

底部四段ハ落後ニ於テモ全く健康位シ南東隅ハ破壊ノ發端ニシテ然ラス

數回ノ壓碎ニ水壓機ノ加重實量  
 ハ本文ノ末尾ニ掲クルアンウヰ  
 ン教授ノ公式モテ計算スルヲ得  
 ベシ壓力計ハ製造人シエツフエ  
 ル及ブデンベルヒ両氏ノ試驗ヲ  
 經タルモノヲ使用セシカ誤讀極  
 メテ些少ニシテ前回諸試驗ト比  
 較研究ヲナス爲ニハ實重量ニ換  
 算スルヨリモ却ツテ壓力計ノ指  
 示重量ヲ採ルヲ勝レリトス

No.35 煉瓦壁シッテンボルン

圖二 第



拔萃

百八十六

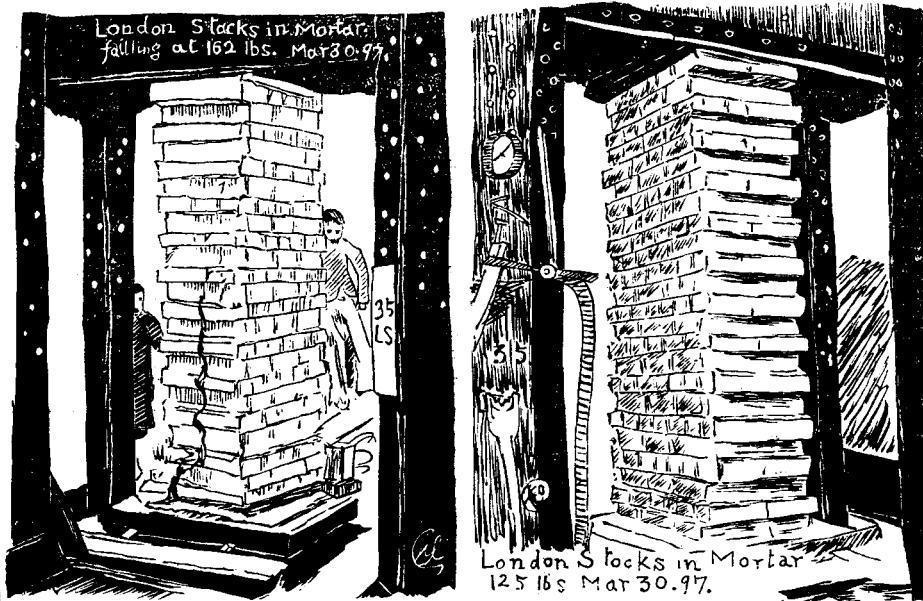
(月三年一十三治明)

卷五十九百第誌會學工

一、三四	一、三五	一、三六	一、三七	一、三九	一、三零	一、三一	一、三二	一、三三	一、三四
一五八	一五九	一六〇	一六一	一六二	一六三	一六四	一六五	一六六	一六七
充三	古一五	古一五	古一五	古一五	古一五	古一五	古一五	古一五	古一五
一八、四	一九、一	一九、五	一九、七	一九、八	一九、九	一九、十	一九、十一	一九、十二	一九、一三
三十二分之二	三十二分之二	三十二分之二	三十二分之二	三十二分之二	三十二分之二	三十二分之二	三十二分之二	三十二分之二	三十二分之二
東面所々兩隅ノ積出ノ所ヨリ凡ソニ時半シテ夥多ノ龜裂ア リ又南端ニ數龜裂見ル	北端第十二段中央ニテ破裂ス	東面第十二段中央ニテ破裂	東面數多ノ細裂見レ又ミルタル小片落ツ	西面第十二ヨリ第十九段迄ヲ貫キテ南隅ヨリ六時ニ龜裂見ル	北端ハ百五十七吋ニシテ單ニ一龜裂ヲ見ルノミ	壁龜裂シ去リテ開クコト十九吋、壓力落ツ	fig.4 見ヨ	東面北東隅落出シ次テ全壁落ツ	第四ヨリ第七段迄ハ落後無異
頂上七段ハ一塊トナリ落チシカ上部三段ハ地面ニ打付ケテ破 散セリ	モルタル密着セシモ猶濕氣アリタリ	手三卷十六	手三卷十七	手三卷十八	手三卷十九	手三卷二十	手三卷二十一	手三卷二十二	手三卷二十三

是等ノ實驗ヨリ得ラル、結果トシテ一定ノ法則ヲ作ルベキハ自然ノ勢ナレトモ充分ニ注意シテ事實ヲ分拆シ然ル後ニアラサレハ容易ニ斷案ヲ下スベカラス但シ安全ノ範圍内ニ於テ讀者各自ノ決定ヲ割出スルハ容易ニ諸表ヲ精査スルニ因テ得ラルヘキヲ信ス但シ各種ノ積

第三圖 第四圖



立及壓碎ヲ目撃シテ一切ノ事實ニ通曉スルモノニ於テ詳細ヲ整理分類スルハ最必要ノ事ナラン  
今暫ク其要點一二ヲ摘出スヘシ

No.36 煉瓦壁 ケント州 バル  
ハムノゴールト 煉瓦ヲ一  
ト二ノ石灰 モルタル 積ノ  
モノ

壁高六呎〇吋八分七長  
二十七吋半 厚十八吋  
平面積三平方呎四三七  
十月二十三日 積立  
三月三十一日 壓碎  
齡二十二週七分四

(月三年一十三治明)

卷五十九百第誌會學工

(月三年一十三治明) 卷五十九百第誌會學工

(月三年一十三治明) 卷五十九百第誌會學工